

# 時の流れの生き証人

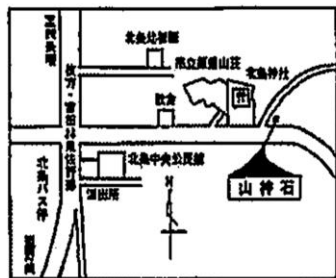


## 山神石 北条五丁目

人々が自然を畏（か）てに生活していた当時  
の名残。  
山を支配する神をあげ、山路の行き帰りに人々は必ず礼拝したという山神石。高さ約六〇センチ、幅七五センチの大きな石の表面には、山と神の二文

字がはっきりと刻まれている。  
飯盛山荘と北条神社の入り口から東に伸びる道と神社入り口を越えてすぐ左に折れる細い山道の、二本の道のちようど真ん中あたり、木立に隠れて二・五メートルの

並んでこの山神石はある。東に伸びる道の左側には、中央に弁財天龍王、右に豊川大明神、左に黒龍大神と刻まれた石がまつられ、その左手にはこの山神石によく似た石がまつられている。  
飯盛山荘利用者や北条神社参拝者のなかにも、道端にあってよく目立つこれらの石に手を合わせる人の姿は見かけられるが、近くにありながらこの山神石に気付く人はほとんどいない。



# 時の流れの生き証人



## 古堤街道の道標 住道一丁目

大和と河内を結ぶ道は、古来からいくつが開かれていた。舟路のほか、陸路として東大阪市の暗峠（くらがりとうげ）越え、本市の中垣内越え、そして四條麻市の清滝街道などがある。

中垣内越えは、大阪天満橋を起点に今福、徳庵を経て本市の緒福、太子田、御供田、中垣内に至り龍岡から大和に入った。これが、後に古堤（こさか）で、またはふつつみ（ふつつみ）街道として大和と河内を結ぶ街道としてに

まわった。昭和四十年代の住道駅前再開発や河川改修でこの周辺の街道筋は途切れてしまったが、住道本通り商店街（サンメイツ）一番館東へ約百メートルの片隅に当時の面影を残す明治三十五年と刻まれた古堤街道の道標が残っている。もとは高さ約百四十センチの堂々としたものであったが、道路のかさ上げ工事などで現在三分の一が土中に埋まってしまっている。

